

全日制

統一地方選挙が行われている。長野県では県議会議員選挙。4月なので、この中に有権者はまだ少ないと思うが、もしいたら是非投票を。今後も選挙に関心を持ち続けてほしい。君たちの世代は少数派だから、きちんと意思表示をしないといけない。

ものを決めるのは難しい。

多数決はそれをとった時点で多くの意見が無視されてしまう。1000人のうちAを400人、Bを300人、Cを200人、Dを100人選んだ。6割の人が「Aではない」と言っているのに、多数決ならAになってしまう。多数決なんて思考停止。欠陥だらけだ。

2000年のアメリカ大統領選挙で、共和党ジョージ・ブッシュと民主党アル・ゴアがあらそった。当初、ゴアが優勢とされていたが、ネーダーという第三の候補が登場したことで、ゴアの票が割れ、ブッシュが漁夫の利を得たということがあった。ゴアが大統領になっていたら、世界の環境政策はすすみ、イラク戦争はなかったかもしれない。

1人が2票投票できるようにしたり、有権者ひとりひとりが候補者の順位を決めてそれを集計したりすると事情はずいぶん変わってくる。

社会的選択はいつでも大きな問題になる。たとえばイギリスのEU離脱問題。国内では普天間基地の移設問題。問題提起されているところでは死刑廃止・存続問題。

グループで話し合いをするとき、うまく意見をまとめるにはどうしたらいいだろう。グループ内ではどんなことが起きているだろう。

小グループでは多数決でなく、強い意見を持っている人の意見が通ることがある。例えば死刑反対も死刑賛成もはっきり意見を持っている人がいると、たいていの人はこちらでもなく弱い意見しか持っていないので、その人の意見が通りやすい。はっきり意見を持っている人は主体的に問題を考えており、説得力があるから。

だが、中に「どちらでもない」強い意見をもっている人がいる。その人は両方の意見をよく検討し、主体的に考えている。

自信のある中間の人たちはそれぞれの意見の利点を理解している、中間なのは不確かだからではなく、対立する意見のどちらにも正当性を認めているから。また、この人はAでも

Bでもないが、AもBも納得できるCという提案ができるかもしれない。

たとえ自分の意見が中間でなく、賛成反対のどちらかでも、賛成ならば反対の人の意見に耳をすますことで、あなたはより強くなれる。

自分ができるもっとも革命的なことは対立する相手と実際に対話することであって、相手の意見を封殺しようとしたり、暴言をはいたりすることではない。

意見の違う人を大切に。その人は自分の意見をさらに強くしてくれるし、私たちの社会を豊かにしてくれる存在だ

人々の多様な意見をうまく生かしながら、学校生活を送ってほしい。いろいろな人の考えが反映できる社会をみなさんには建設して行ってほしい。